

＜平成27年度健全化判断比率＞

- ◎実質赤字比率（早期健全化基準:14.74%） －
（一般会計の実質収支が黒字の場合「－」となる）
- ◎連結実質赤字比率（早期健全化基準:19.74%）－
（全会計の実質収支が黒字の場合「－」となる）
- ◎実質公債費比率（早期健全化基準:25.0%） 8.1%
（標準的な財政規模に占める借金返済額の割合）
- ◎将来負担比率（早期健全化基準:350.0%） 54.8%
（標準的な財政規模に占める将来負担すべき実質的な負担の割合）

※どの会計も黒字で資金不足がないため「－（該当なし）」で表示しています。

＜平成27年度資金不足比率＞

- ◎北部簡易水道事業特別会計資金不足比率 －
 - ◎南部簡易水道事業特別会計資金不足比率 －
 - ◎農業集落排水事業特別会計資金不足比率 －
 - ◎公共下水道事業特別会計資金不足比率 －
 - ◎温泉施設特別会計資金不足比率 －
 - ◎水道事業会計資金不足比率 －
- ※公営企業毎の資金不足額が、事業規模（料金収入の規模）に対してどの程度あるか示す指標です。

監査委員の決算審査意見（抜粋）

歳入総額は、収入済額 87 億 7,528 万円で前年度に比べ 3 億 7,286 万円増加したが、町税の収入未済額は、5,127 万円となっている。また、ふるさと納税による収入が、1 億 5,880 万円あった。

平成 27 年度の財政運営に関しては、給食センター建設等プロジェクトを推進する中であっても適切且つ合理的であったと言える。また、特別会計についても適正化に向け努力され、その姿勢を高く評価する。

行政に携わるすべての役職員の職務の遂行にあたり、「住みやすさ」や「福祉の充実」で十分成果を挙げつつ、一方で目に見えないところで効率化を徹底することが、極めて大切であることを一時も忘れずに行動されることを期待する。

人口減少で数年前までは当該予算を前年と同様に組むことが可能であったものが突然不可能になったり、これまでの制度が維持できなくなったり等、行政組織そのものの運営に支障を来す事態が来るかもしれない。中長期計画は、右下がりの時代には極めて重要であることを進言する。

平成27年度国民健康保険特別会計決算

区 分	歳入決算	歳出決算	実質収支 (黒字)
H26年度	23億5,766万円	23億1,128万円	4,638万円
H27年度	27億5,912万円	27億3,494万円	2,418万円

加入状況

区 分	H27.3.31	H28.3.31	年度平均
世帯数	3,293世帯	3,234世帯	3,270世帯
被保険者数	6,029人	5,860人	5,963人

平成28年度一般会計補正予算

**6億2,219万円を減額して
総額84億6,085万円**

歳入の主なもの

前年度繰越金 3億 63万円
 学校給食センター建設負担金
 ▲5億6,529万円
 町債 ▲4億1,588万円

歳出の主なもの

学校給食センター建設事業費
 ▲12億2,015万円
 総務費（管理費他） 2億6,337万円
 土木費 5,528万円